

あなたに知ってほしい。

自閉症スペクトラム

2020年度のLight It Up Blueの活動報告

Light It Up Blue みえ 2020



Light It Up Blue みえ 実行委員会の紹介



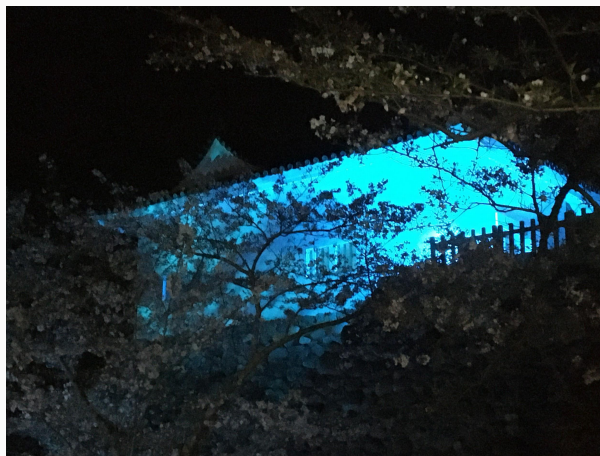
私たち実行委員会では、自閉症スペクトラムなどの個性を受け入れ合う暮らしやすい街づくりに向けて活動しています。当事者、親、ヘルパー、教員、スーパーボランティアマンなどなど・・・立場も年齢も様々な仲間が集まっています。

2015年かに発足し、毎年啓発活動を行ってきました。主な活動内容としては以下の通りです

- * 毎年4月の世界自閉症啓発デーに合わせて地域のランドマーク(津城、亀山城多聞櫓、伊賀上野城など)のライトアップ(自閉症啓発週間に実施)
 - * 当事者や親、様々な専門職者が集まって来場者のお悩みについてディスカッションする公開「トークセッション」(年1回)
 - * 自閉症、発達障害について知ってほしい本音メッセージを集めて掲示する「メッセージキャンペーン」(通年)
 - * 発達障害や発達支援、就労支援について学べる体験できるブース出展
 - * アート作品展・バリアフリーマルシェ・みんなが主役のステージパフォーマンスなどなど
- その他にも、「自閉症あるある紙芝居」「みんな青いコスプレとかどう?!」「集めたメッセージプロジェクションマッピングやってみたーい!」などなど、楽しみながら伝えたいという気持ちで活動を行っています。

Light It Up Blue みえ2020 活動①

WHO制定の世界自閉症啓発デー(毎年 4月2日)にあたり、地域のランドマークである津城、伊賀上野城、亀山城多聞櫓のライトアップ及びリージョンプラザでの終日の啓発イベント(自閉症に関する展示や体験ブース、公開トークセッションなど)を企画しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、啓発イベントは中止とし、お城のライトアップのみ、を無観客で実施し、SNSを通じてのオンライン活動としました。



Light It Up Blue Mie presents

問い合わせ先 liub.mie@gmail.com

こうえんかいと トークセッション



参加費

1,000円

※記念品あり

オンラインでやるよ

2020年9月6日（日）

13:00~14:30



講師：門 眞一郎 先生

【講演会】「自閉症支援のこれから
～自立社会参加を目指して～」

門 眞一郎 先生 Profile（プロフィール）

1948年 広島市の生まれ
1973年 京都大学医学部卒業
1980～81年 ロンドン大学精神医学研究所にて
児童精神医学を研修
1981年～2017年 京都府児童福祉センターに勤務
2018年 ピラミッド本社から世界で2人目
の名義コンサルタント受賞

著書 「不登校を解く」（ミネルヴァ書局）
訳書 ギャニオン「パワーカード アスペルガー症候群
や自閉症の子ども達の理解を深める視覚的支援法」
（朝倉書店）
ホジダン「自閉症スペクトラムとコミュニケーション
シ」・「自閉症スペクトラムと仲間行動」（東和書
店）
ポンド「教育へのピラミッド・アプローチ：役に
立つABA入門」（ピラミッド教育コンサルタントオ
ブジャパン）など
「自閉症児と絵カードでコミュニケーション」（二風社）

HP：「門眞一郎の落書き帳」
<https://kado2006.sakura.ne.jp>



14:30~16:00

【トークセッション】様々な立場の人が集って一
般参加者の質問や意見をもとに話し合います
トークセッションメンバー

司会：荒田 誠司（盛会特別支援学校 教諭）
・飯田 幸雄（筑波大学子ども教育学部非常勤講師）
・大橋 里奈（特別支援学校 聖母の家学園校長）
・門 眞一郎（児童精神科医）
・多田 智実（筑波大学医学部 助教）
・米田 奈緒子（一般社団法人 家庭教育研究センターFACE代表）
敬称略

【参加方法】

1. 2020年8月28日（金）までに
<https://liubmie.thebase.in/>
にてチケットをご購入ください
2. 返信メールが来ますので当日指定したアドレスからご参加ください
3. 後ほどメールでお知らせ頂いたご住所に記念品を送らせていただきます



Light It Up Blue みえ2020 活動②

4月に開催予定であった啓発イベントのうち、毎年参加者から好評をいただいているトークセッションおよび、長年自閉症をはじめとする多くの子供たちを支え、コミュニケーション障害への支援ツールPECSを日本に広めてこられた児童精神科医の門眞一郎先生をお招きしての講演会をオンラインで開催しました。

トークセッションは津市をはじめ三重県内の教育・就労支援・福祉・医療の専門職者と自閉症スペクトラム当事者らが、一般視聴者からの質問にディスカッション形式で答えると言うもので、オンラインで開催した今年度は津市内のみならず四国や九州など全国区からの視聴者の参加がありました。



実際にトークセッションに寄せられた質問や相談・メッセージの例をご紹介します



発達障害のことを理解してもらってない感じがする。

(30代 男性 事務職)

急な指示、TEL取りが苦手だが、強制的に克服するように言われる

居場所や人とつながるために人一倍苦労している
寂しいし、なかなか打ち解けられず、辛い

ここへ行けばみんながいるような場
の情報提供、紹介、
ネットワークがあると嬉しい

15歳になる我が子。

YouTubeを自分でアップしたり編集したり

その操作は長けているのですが・・・

アップすればするほど人気が出て評価してくれる人もいれば、

反対に低評価を出してくる人もいて

低評価を押されるたびに家で暴れています。

暴言をアップしてしまうこともあります。

そのような場合、どのように本人に伝えてあげればおさまるものでしょうか？

(母親)





5年生の女の子。

最重度の知的障害をもつ自閉症です。

今も大変なのに思春期をどう乗りこえるか・・・

不安でいっぱいです。

穏やかに毎日を過ごしてほしいです。

(母親)

先生方へ

母親の味方になってくださると
助かります。

5年前に自閉症診断を受けた50代の父親が、
16歳の普通科高校に通う自閉症の息子に
「自分はなんの支援もなく1人で頑張ってきたから、息子も支援は
必要ない」
「(息子は)頑張りが足りない。甘い。」
という姿勢で接することが辛い
母として、妻としてどうあるべきか。
ヒントをいただきたい。





今年、中学校に入学する男の子。

自閉症スペクトラムで一般の中学に入学する予定です。

最近になって音声チックで困っています。

他の生徒にどのように障害のこと認知してもらおうかと思っています。

広汎性発達障害、軽度知的障害、ADHDの3つの障害を持っている
ます。

見た目ではすごくわかりにくいので、理解を周りからされにくくて
「見た目は普通に見える」と言われ、「どこが障害なん？」
と言われたりした事や、
「障害を武器にしやんほうがいい」とか
「努力が足りやんだけとちがう？」と言われたりして
辛く思ったことがあるのですが
そういうのを理解してもらえない人に対しては
どう対応して、どう接していくべきでしょうか？

(30代女性)



本人に、周りに どうこの個性を分
かってもらえばいいのか・・・

Light It Up Blue みえ2020 活動③

通年の啓発活動と、これまでの活動を通して得られたメッセージや対談、情報を集めたフリー冊子「発達さんの日常」の発行と配布を実施しました。冊子の内容を一部掲載いたします。

発達さんの 日常

自閉症スペクトラム 発達障害のリアルなオハナシ



Light It Up Blue みえ

実行委員会

×
三重ふるさと新聞

発達さんの日常 archive ③ 障害を持つ子の支援

発達障害者の言葉・コミュニケーション能力の支援について、当事者の母・龜田佳子さん、特別支援学校教諭の石井幸仁さんが語る（敬称略）。

当事者の親と教諭が支援を語る



龜田佳子 さん

三重県在住。次男が最重度判定の知的障害があり自閉症。子育てに不安を感じ参加した県外の勉強会で息子とのコミュニケーションには視覚的な支援が有効と知り、2002年地元で勉強会を発足。

龜田 私の子は現在26歳（対談当時）、手帳では最重度判定の重度の知的障害をもつ自閉症（発達障害の一種）です。2歳のとき発語がないため相談に行き、療育を受け始めましたが本人の状態は変わらず、悩みました。

なんとか息子とコミュニケーションをしたいと思い、自閉症の子などを対象とする「TEACCH（ティーチ）プログラム」の勉強会に参加し、重度の自閉症の子がタロを振り回しながらも、お母さんに「お茶下さい」と絵カードで伝えているビデオを見て、希望の光だと思って、コミュニケーションの方法は言語以外にもあると気づいたんです。

子供のころは「超多動」で、裸足で家から脱走することが多く、親走中に交通事故に遭ったこともあり、自宅を建てたときには塀を高くしたんですが、簡単に上って外に出てしまいました。そこで、息子が行きたい場所や今まで行った場所を全て写真に撮り、出掛けるときは事前に息子に「今日はここにいきます」と写真を見せて行き先を伝えるようにしたら、勝手に家を出て行くことがなくなりました。

そのうち、息子のほうからここに行きたいとアクションするようになり、息子とのコミュニケーションでは、本人が目で見えて理解することが大事だと分かりました。また息子は茄子が好きなので、私は息子が小さい頃から茄子の絵カードを作って「これは茄子」と伝えたら、本人はあまり絵を描けないですが、ある日、茄子を描いて自分から「茄子」と伝えてきたんです！さらに、写真と文字と一緒にしたカードをコミュニケーションに使うことで、息子が伝えてくる言葉が増えました。

小学校1年生で特別支援学級に入った際には、担任の先生にも「息子はあいうえお表に興味がなく、今までの経験上、いくら一生懸命教えても覚えないうから、息子が興味のある食べ

物を学習に活用して下さい」とお願いしました。そしたら運動会では、先生がゴールで茄子の模型を掲げて「茄子だよ〜！」と言ってくれて、息子はそれに向かって走っていきました。

石井 自閉症の子供にとって「走る」って中々目的を持って取り組みにくいですし、行事という普段と違う状況だったり、ギャラリイがいたりすると一層難しい。そんな中で、先生



石井幸仁 さん
三重県立松阪あゆみ特別支援学校教諭。発達障害の人などが対象の、絵カードを使ったコミュニケーション学習「P.E.C.S（ペクス）」の普及に取り組む「三重P.E.C.Sサークル」の代表。

は、ゴールで茄子を持つことで走ったら嬉しいことが持っているというセッティングをして、モチベーション（動機）を作ってくれたんですね。その考えはすごく大事だと思います。

私は、動機付けを重視しています。授業で知識を得たり、将来役立てたりすることも大切ですが、何のためにこの学習をやっているのかという目的を明確にして、その授業時間内に達成し、子供自身が頑張った良かったと思えることが必要だと思います。

龜田 そうですね。当時、周りのお母さんの中には課題をやったら欲しいものをもらえるという風には教えたくないと考える人もいましたが、子供が将来仕事をしてお金をもらうというのを考えると、頑張ったら何かもらえるのは良い経験になると思います。

目的達成の見通し明示 「選択する力」も育て

石井 私は今、中学部2年生を担当していますが（対談当時）、学年が上がり卒業が近づくとつれ、「将来のために」「働くために」と先生目線の目標が増えてくるんですよ。それで意欲が持てる子なら良いのですが、意味がわからないまま過ごしている子もいるので、一人一人に分かる支援は必要だと思います。文科省が掲げる「主体的・対話的で深い学び」には、子供の夢・願いを踏まえて必要なスキルを指導することが大切だと考えています。例えば作業学習という授業で、何のために、何を、どのくらいすれば良いのか、見通しを提示しないまま手先が器用な子供たちに作業をさせているケースがあります。私は、作業自体にモチベーションを持ちにくい子たちのために「P.E.C.S」の「視覚的強化システム」を導入しました。このシステムは「何かの課題を頑張ったら、ごほうびが手に入る」ということを視覚的に示すもので、子供が課題を達成する毎にトークンと呼ばれる黒い丸をボードに貼り、トークンが貯まればごほうびと交換します。

発達さんの日常 archive ④

発達障害者の仕事と自立

発達障害者の仕事や自立を、県内在住の当事者、浜野千聡さん（28）、Aさん（仮名・29歳男性）と、千聡さんの母・芳美さん（60）が語った（敬称略。聞き手は本紙記者・小林真里子 対談当時）。

働く当事者と親が語る 職業体験で好きな仕事発見 働く意味理解し、やる気向上

——お二人の仕事について教えてください。

千聡 喫茶店「ぼっカフェ」でレジ打ちをしたり、味ご飯を作ったり、そばをゆでてトッピングしたりしています。

A 大学の紹介で色々な仕事を体験させてもらい、その中で今の商品のパッケージ・配達の仕事が一番自分に合ったので就職しました。

芳美 娘は元々小学5年生の2分の1成人式で、「将来マクドナルド屋さんになりたい」「お店でレジがしたい」と書いていたんです。高等部の現場実習で色々な職業体験をさせてもらい余計にそう思ったのかなと。でも体験は体験にすぎず、体験先への就職には結びつかなかったの、それがちょっときつかったですけど。

最初に働いたB型事業所では車の部品のかしめ加工などを担当しましたが、初めの10カ月くらいは仕事をせず社内の保健室のような部屋でずっと寝ていました。当初は「お母さんは来ないで下さい」と言われてましたが、ある日、指導員の方に面談に呼ばれ「どうしたらこの子は働くようになるんですか」と聞かれました。その時、面談している部屋に娘が来て、たまたま商品のタオルが運ばれてきたので、それを畳みながら話すことに。私が指導員の方に「ところでこのタオルを1枚畳むといくらになるんですか？」と聞き「2円です」と教えてもらい、娘に「30枚くらい畳んだらいくら？」と聞いたら、「60円」と。娘はそのやりとりで働く意味、仕事と給料の繋がりを理解し、そこから頑張るようになってきました。さらに、小さい頃から「～ができたら丸」とほめていたので、事業所の人に頼み、娘が時間通りに出勤するなどしたら丸を記入する用紙を作って毎日丸をつけてもらったんです。そうしたら、益々やる気を出しました。ただ部品加工は受注制の仕事なので受注がない時は全く違



う作業に回され、娘は障害の特性によりその作業のにおいや音も苦手なので仕事に行きたくなくなってしまい、辞めたんです。

グループホームや一人暮らし体験し 自分に合う生活スタイル知る

——お二人は現在、実家暮らしですが、実家以外で生活されたことはありますか？

A 前はグループホーム（以下GH）にいましたが、プライバシーがあまりなく、皆で一緒にご飯を食べたりする生活が、自分には合いませんでした。皆で生活することが苦じゃない人には良いと思うんですが、自分みたいに個人でご飯を食べたいという人には向かないと思います。

芳美 娘も一時GHで暮らしていましたが、皆と一緒に起きたりご飯を食べるのが苦痛だったんじゃないかな。GHを出た少し後から1年半くらいの間、「ピアサポートみえ」が津市内のマンションで運営している、ヘルパーにサポートしてもらいながら一人暮らしする生活が体験できる部屋を何度か利用し、「グループホームよりこっちのほうが良い」と言いました。そして今、亀山市内の買い物にも便利なアパートが空くのを2年以上待っていて、空いたらヘルパーに付いてもらい一人暮らしをしようと話しています。

——一人暮らしは、どういうところが楽しいと思いますか？

千聡 一人で好きな場所に行けるのが楽しいです。やっぱり、どこかに行きたいときに一人で（自由に）出かけられなかったら困ります。

——自立や一人暮らしには自炊も重要ですが、普段料理はしますか？

A 母からちょこちょこ習っています。

千聡 お母さんがいない時は一人で野菜炒めを作ったりしています。でも、いる時はお母さん任せ。一人暮らしするために、お母さんに料理を覚えてもらいたいです。

——千聡さんの自立や将来について親としてのお考えを教えてください。

芳美 娘が最初に働いた事業所は良い条件が揃っていたのでこれでもう安心と思いました。が、やはり本人に合わない部分もありました。また、GHに入れたら良いと思っていたけど実際入れてみると違うんだなって。子供の性格や好みの生活スタイルがあるので、親の思いを押し付けても上手くいかない。だから、自分達が元気なうちに行政の自立支援事業などの情報を集めて色々なことを試し、娘が失敗したらいくらでもフォローをして、将来に繋がりたいです。

——発達障害に関して、職場の人やお客さんに知ってもらいたいことは何ですか？

A 困ったりパニックになった時の形は色々で、誰も彼も「ギャー」となるわけじゃなくて、逆に真っ白になって立ち尽くす人もいるということです。

千聡 レジ打ちで、文句を言われたことがあります。

芳美 娘が働き始めたばかりの時、レジでモタモタしていたらお客さんに怒られたことがあって、私らが謝り「ここは障害のある人が働いていて、この子も障害を持っているんです」と説明したら「見た感じ分からないから、胸に何かマークを付けといてよ」と言われたんです。それで私は本当に「私は障害者です」と示すバッチを付けようと思い、娘にもそう言ったら娘も「うんうん」と。だけど、お店の皆で話し合ったらそれはちょっとねと。だから、「ここは障害者も健常者も働く喫茶店です」という貼り紙をしたんです。それから、お客さんに何も言われなくなりました。

特に発達障害って見た目で分からない障害なので、気付いてもらいにくいんです。「ぼっカフェ」ではそこを周りのスタッフが上手にカバーするので、発達障害がある人たちが皆さんそれぞれのペースで楽しく仕事をしてもらっている、私は思っています。

小学生時代は乱暴な行動多数理解ある職場で褒められて変化
——親としての、千聡さんの将来への思いは、昔と比べて変化しましたか？

芳美 周りのお母さん方は「とにかく他人様に迷惑をかけない子にしたい」「犯罪に関わるような人にはさせたくない」とよく言っていますが、私は実際、そうなるんじゃないかと思った時期がありました。千聡が小学生の時、高機能自閉症の子が人を殺す事件があって、当時、自分の子供もそういう風になってしまうんじゃないかとすごく怖かったんです。家で暴れて物を壊したり、壁に穴を開けたり、ペットを殺したりしていたので。だから、あすなろ学園（現・子ども心身発達医療センター）での入院も含め周りの色んな人に助けてもらって皆さんにこの子を育ててもらったなと思っています。今では「この子は癒やしの存在だ」と言われ、ヘルパーさんにもすごく好かれて「ちーちゃんのお世話なら私がしたい」と手をあげてくれる方が何人かいるので、ありがたいことだなんて。娘が小学生の時はこんな風になるとは思っていなくて、将来が不安で不安でしうがなかったです。

——千聡さんが変わった理由は何でしょうか？

芳美 多分、楽しいことが一杯あったんじゃないかなって。昔は親にも周りにも理解されなくて、自分のすることに「これはだめ」「こうせなあかん」と言われて嫌で辛かったんだと

思う。仕事を始めてからは周りの皆さんが「すごいね」とたくさん褒めてくださる中で働かせてもらっている、それが良い状態に繋がっているのかなと。

A 僕の職場の方も良くしてくれて、配慮してくれているのかあまり厳しく言われることはありません。分かってくれている人に囲まれて働けるというのはやっぱり良いですね。

発達さんの日常 arcive⑤ 最終回 発達障害への支援

発達障害のリアルを当事者・専門家が語る対談連載。発達障害は、生まれつき脳の発達で通常と違うために幼いうちから現れる様々な症状。出生率は数十人に一人。最終回は当連載のコーディネーターで、言語聴覚士として発達障害を持つ子供の支援を行う新谷麻衣さんが語った。（敬称略。聞き手は本紙記者・小林真里子 連載当時）

——当連載を振り返っていかがですか？

連載企画を暖かく実現して下さったことに何よりも感謝しています。発達障害という言葉は広まってきましたし、社会で皆がまぜこぜになり暮らしているものの、「実際どんなふうなのか」は専門書や単発的な報道では伝わりきらないんです。

私は学生時代から「アスペ・エルデの会」に所属し多くの当事者や関係者とお会いしてきました。訓練室などの改まった場ではなく、雑談している時に面談で語られなかった生活の背景がふと語られたりして、聞き手として点と点が繋がるのがとても多いんです。また

「ライトイットアップブルーみえ」で展示する、当事者などから社会へ向けた「目は合わないけど聞いてます」のようなメッセージが、どんな専門書よりも理解に役立つと実感しています。



新谷麻衣 さん

津市在住。音楽家・言語聴覚士・NPO法人アスペ・エルデの会三重支部ピカリンディレクターとして発達障害の子を支援。また、県内で国際的な自閉症啓発活動「ライトイットアップブルーみえ」に取り組んでいる。

このような、支援に必要な金言を生む「雑談という宝物」や皆さんの思いを、沢山の人に届けられる連載ができたことは画期的だと思います。

——発達障害の子の支援の中で、特に印象深い場面を教えてください。

やはり本人や親御さんが、「他者との違いを受け入れる」瞬間ですね。特別支援級の利用を打診された時のご両親の表情や、ふと「僕が皆と違う部屋で勉強しているのは僕がダメだから？」と聞いた子、「発達障害と診断をつけたら何かこの子が変わるんですか!？」と興奮が抑えられなくなったお母さんもみえました。曖昧な言葉でその場凌ぎの対応をしてしまうと実態と本人の気持ちとの間にねじれが生まれ、拗れてしまう恐れがあります。かと言って、身も蓋もない言葉で現状を直視させるのは危険です。

特に保護者は、子供の将来を思って転ばぬ先の杖を用意したいと、即効性のある解決法を求めて相談される方も多いです。その焦りや不安を受け止めながら、日々のエピソードを聞き、そこからお子さんの成長をしっかりとキャッチして伝える。「自分の子と他の子との違い」に気づき始めたり、子供が就学前などで気づきを促したい方には「発達障害」という言葉は使わないようにします。

発達障害と診断されたらその途端、その先の人生の方向性が定まってしまうと思われるがちですが、実際の日々はもっと細かいステップで色々なことに向き合いながら過ぎていきますし、当事者の状態は千差万別で、日によって（時には分単位で）変わるので何も一括りにできないですね。

私も親として同じ経験をしたましたが、長年専門としている分野にも関わらず動揺しました。連日夜通しの夜泣きや公共の場でのパニック、きょうだいへの申し訳ない気持ちや自分の親世代との思いの食い違いで苦しい経験もしました。それでも、毎日が地獄のように暗いわけではなく、しんどい中でもちょっとした子供の姿が愛おしかったり面白かったりしましたし、今でもトライ＆エラーを繰り返しています。子供の姿と自分の姿、周囲の姿を多角的に見ることで「陰が陽になる」というか、柔軟性が鍵になるんです。

——発達障害の相談に対応する時、どんなことを心がけていますか？

例えば、保護者からの「集団で遊べない」という相談には生活背景をしっかりと聞き取り、今その子が集団で遊ぶ必要がある段階なのかどうかや、集団ではなく一人で遊ぶ理由やメリッ

ト、必要性も考えながらお話させて頂いています。「遊べない」と、「遊ばない」では、事情が異なってくるからです。

また「言葉の発達が遅れている」という相談には「周りと比べて遅れている」ではなく「今、この子の発達がこの段階」という視点で、普段の生活の中でどうやって伸ばしていこうかと一緒に考えるように働きかけます。

そして、今のその子の生活に適した支援がもたらすメリットをお伝えしたり、私がこれまでの支援活動で出会った事例を話してみる。すると、先の見えない不安が少し和らぐ方も少なくありません。これは、先にお話した「雑談という宝物」が与えてくれるものですね。一方、お子さん自身からの相談では、とにかく日々のエピソードを沢山聴いて、その中から頑張れている姿やユニークな姿を見出し、ポジティブな言葉で伝えるようにしています。

特に発達障害のグレーゾーン（「発達障害の特性を持っているが、診断基準は満たさない状態」を指す通称）のお子さんの場合は、友達との発達や興味の差が開いてくる年齢期に「今までみたいに遊んでもらえない」「誘ってもらえなくなった」という相談や、ケンカなどのトラブルも聞きます。この場合には、出来事や、本人と相手との関係性よりも、「その時のあなたの状態」を聞きます。答えが「しょうがないから一人で遊んだ」なら、相手の気持ちを尊重できたことが素晴らしいですし、別の方向性の友達ができる可能性を示したりもします。

また少し前に、「忘れ物をする」「うそをつく」「言っちゃいけないことを言う」などのいわゆる困った行動を「妖怪がのりうつった」とコミカルに表現したテレビ番組がありましたが、この表現が相談に対応する際、大変役立ちました。

発達障害を持つ子供の中には、感情のコントロールが難しい子やこだわりが強い子も多いので、衝動的に行動してしまい、後からひどく自分を責めて落ち込むというケースもあるんです。そこで、例えば落ち着きがなく椅子に座ってられない子には、「妖怪ソワソワが暴れ出してるから、ちょっと静かにするように言おうか」と話しかけたりしました。

このような表現は、「努力などの根性論ではどうにもコントロールできない自分」というものを見つめて付き合っていく力を育てるのに有効です。何よりも、困った行動が出た時に直接的に本人を責めることなく、穏やかに注意を促すことができるんです。ちなみに、うちの子の場合は遠足にリュックサックを忘れて行く猛者ですと、「忘れん坊将軍が現れた!」とユーモアを交えて声かけています。



——発達障害を持つ人とそのほかの人が理解し合いながら共生するために、それぞれができることは何でしょうか？

この連載の第1回にもご登場頂いた金井先生（三重県立子ども心身発達医療センター長）が「人類みな発達障害」とおっしゃっていましたが、これは本当に共感できる言葉で、人は必ず何かが得意で何かが苦手なんでしょうね。先ほどお話した、「忘れ物をする」「うそをつく」など困った行動をする「妖怪」は発達障害の有無に関わらず、皆さんにのりつります。ただ、それをうまく飼い慣らせるタイプの人と、手こずってしまうタイプの人、妖怪の存在に気づけないというか、自分の姿が見えないタイプの人がいます。

タイプの異なる人同士が理解し合い共生するためには、「それぞれのタイプがどのようなものなのか」という情報を共有することももちろん必要ですが、お互いの「寛容さ」「柔軟性」「ユーモア」が鍵になると考えています。例えば、私にも忘れん坊將軍がよくのりつりますが、「片付けてしまうと忘れるが、見えていれば忘れない」という飼い慣らし方を発見しましたので、仕事机は多少の散らかり感を覚悟の上で色々なところに書類がマグネット



もちろん、社会には深刻な問題もあります。例えば「数字の処理がとても苦手な人と同じ職場で働く人が、苦手な人の分の仕事もフォローしているのにお給料が同じ」という状況は寛容さだけでは乗り越えられませんよね。一部の人にだけ寛容さや柔軟性を求めるのではなく、この例だったらその職場の経営者や、働き方・お金の流れを司る国の機関にも対応が求められるわけです。

話が大きくなりすぎてわかりにくいように思えるかもしれませんが、「常識的に考えて、〇〇をするのが当たり前なのだが、それが行われない場面に直面した」という場合の適応能力や、「じゃあ、どうすれば良いのか」という発想力が健常者と呼ばれる人にも発達障害（自閉症スペクトラム）の人にもっとあると、色々な問題が問題ではなくなるのではと考えています。

——「常識」や「普通」といった人によって尺度が異なるものに捉われず、互いを尊重し合いながら、快適に共生するための方法を一緒に考えることが大切ですね。社会の発達障害への理解を広めるには、どのようなことが有効でしょうか？

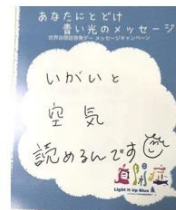
それぞれの発達の個性やスピードに適した場で学ぶことは重要なのですが、そうすることによって特に学齢期から青年期に様々な障害者は定型発達者と生活環境自体が離れてしまうケースが多いんです。学校が違って、進路が就労移行支援事業所や障害者雇用だと、一生関わり合いがないことも。

とは言っても、同じ空の下、同じ社会で暮らしていますし、街中などで出会うことは当然あります。しかし、テレビのCM・ドラマ・アニメや映画、漫画で不特定多数の人が登場するシーンに、発達障害者に限らず、障害者が「当然の存在」として描かれることはめったにないのに、逆に「主人公は発達障害の少年」のように特別に扱われることはありますよね。

こうしたことで既に社会の印象が定められると言うか、紋々しているように感じています。ここが変わってくると、当事者との具体的な接点を持つことが難しくても理解は大きく進み、社会が変わると思います。

そういった点では、米国の某番組で自閉症の女の子がレギュラーのキャラクターに採用されたことはとても大きな意味があります。日本でもこういう動きが出てくるというですね。SNSでは、「#発達障害あるある」などのタグがついた当事者の本音や、日常のネガティブエピソードの投稿を目にすることがあります（ポジティブなものも、もちろんあります）。また、一つのことにやたら詳しい人やこだわる人に対して、親しみを込めて「アスベかよ」とツッコミを入れるやりとりも見られます。人によっては驚いたり、いじめのように感じるかもしれませんが、私はむしろこれまでの社会から当事者への腫れ物に触るような扱いよりもこうしたやり取りの方が、オープンで多様性社会の可能性に満ちていると考えています。タブー視せずに、もっともっと絡んでほしいと思うくらいです。

「人類みな発達障害」という言葉はちょっと刺激的かな？でも、これは言い換えると「わたしもあなたもみんな凸凹」ということなんですよ。凸や凹がまぜこぜになって、組み合わせたりはまらなかったり……。そうしてこの社会ができていくんですよ。



ピカリン

特定非営利活動法人アスペ・エルデの会
三重県正会員団体

アスペ・エルデの会は、発達障害をもつ子どもたちの支援の場、自助会、専門家養成、発達支援についての啓発、発信点、研究機関を統合的に目指していく「生涯発達援助システム」です。三重県では、月に2回の「学習会」という集まりを持ち、学習面や社会生活でのサポート、本人や家族との相談の場を開いています。





イラストBy BUN

Memo

おまけコーナー

私の、あなたの、ウチノコの『取扱説明書』を書いてみよう

produced by 新谷麻衣 絵は「いらすとや」さんより



発達さんの子育てや、社会スキルトレーニングには行動や心の分析が取り入れられることがあります。このコーナーは、一見難しそうな分析を楽しんで取り組むエクササイズです。



令和2年度 津市民活動推進事業 交付金について

今年度活動の以下の項目に使わせていただきました。ありがとうございました。

- 感染対策用としてのパネル・消毒等の購入
- トークセッションおよび講演会講師の先生方の報償費
- ライトアップ用の照明器具および照明用フィルムの購入
- 啓発チラシ印刷費・発送費用
- 発達障害情報配布冊子「発達さんの日常」印刷製本費
- オンライン講演会・トークセッションのネットワークサービス使用費
- その他消耗品